

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム せせらぎの里 らいらっく	評価実施年月日	平成21年12月6日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年12月12日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>地域密着型サービスとしてのグループホームを目指し、事業所理念とともに職員で作上げたユニット理念を掲げている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>いつも目につく所に理念を提示し理念に沿ったケアの提供を心掛けている。また管理者と職員はミーティングや必要があればその都度話し合いをし理念の実践に向けて努力し取り組んでいる。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族様には通信や運営推進会議で伝えるようにしている。地域行事などには可能な限り参加している。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>出勤時や外出の時など、近隣の方との挨拶に心掛けている。立ち寄ってもらえるつきあいは出来ていない。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域のお祭り、近隣の小学校や保育園などから案内を頂いたものは積極的に参加を心掛けている。</p>	○	<p>地域住民の一員として清掃活動や行事などに参加するなどして地域との接点を持てるようにしていきたい。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議などで話し合われているが、具体的な取り組みには至っていない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義や目的は理解しているが、具体的な改善への取り組みは出来ていない。	○	今回の評価を受け、職員全員で具体的な改善の取り組みを行ってきたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で状況報告など行い、質問や意見を頂きサービス向上に努めている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	入居状況の報告は行っている。頻繁な行き来はないが必要に応じて報告や相談を行っている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	勉強会、研修などで知識と理解を深めるようにしているが、全職員への周知には至っていない。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修などで高齢者虐待防止法を学び防止に努めている。常に職員同士が不適切なケアを行っていないか確認しあっている。	○	定期的に勉強会を行っていく。言葉づかいなど職員同士で「不適切なケア」になってないか確認しあう。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約時には時間をかけて不安や疑問点に対して説明を行い、理解、納得頂くようにしている。特に起こりうるリスク、重度化した時の対応、医療連携体制については詳しく説明している。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からの意見、不満、苦情は気軽に話して頂けるような関係作りと環境に心掛けている。伺った意見などはミーティングや申し送り時に話し合い解決できるように取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月一度「せせらぎ通信」に生活状況のコメントと写真を掲載して送付している。面会時には日常の様子を口頭で伝えている。金銭管理については請求書と一緒に郵送している。健康状態に変化があった場合はその都度電話にて報告、相談を行っている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に苦情や意見の受付先を説明している。玄関に御意見箱を設置するとともに来訪時には気軽に話せる雰囲気作りを心掛けている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者や管理者は職員からの意見や提案を聞くように心掛けている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事、イベントなどの時は通常より多い人数を配置している。状況に応じ勤務時間の調整が行えるよう職員の理解、協力を得ている。緊急時には管理者がシフトに入るなど柔軟な対応が取られている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	1ユニットのため異動はない。新しい職員が入った時は既存の職員がバックアップし利用者への負担を最小限に抑えるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>段階に応じ外部の研修に参加している。法人内での定期的な勉強会は実施されていない。自主的に資格取得の意思がある職員には講習等に参加できるようにシフト調整している。</p>	○	ミーティング以外に定期的な勉強会を実施していきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>区の連絡会や研修会、事例検討会などに参加している。職員が地域の同業者と交流する機会は少ない。</p>	○	職員にも他のグループホームを相互訪問できる機会を設けていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>日頃からコミュニケーションを図るようにし、意見、要望を聞くようにしている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>向上心を持って働けるよう助言、アドバイスを頂いている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入所相談後は必ず本人と直接面談している。ホームの内容説明を行い、困っていること不安や要望などを聞いている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居相談面談時にご家族様が困っていること、不安、要望などを聞き、ホームでの対応例などを説明させていただき不安軽減に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>25 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>「その時」の本人、家族の状況を見極め、状況に合わせた他サービスも含めた支援対応を心掛けている。</p>		
<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>26 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前にホームを見学していただき雰囲気をつかんでいただくことをお勧めしている。難しい場合は職員が訪問させていただき、不安を軽減してもらえるように心掛けている。また入居後一週間程度は家族に一日の様子を電話連絡し相談しながら対応している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>27 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>入居者と職員はお互いに協力しあい、楽しみを分かち合いながら笑顔を共有できることを心掛けている。</p>	○	人生の先輩から学びたいという姿勢を常に持ち続けることに努めたい。
<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>28 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>来訪時には日常生活の様子や健康状態を報告している。情報を共有することで一緒に利用者を支えていけるよう取り組んでる。</p>		
<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>29 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>本人と家族の関係を出来る限り理解し思いを聞いたうえで、安心したより良い関係を築けるように努めている。</p>		
<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>30 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>いつ、誰でも面会にきて頂けるようにしている。面会簿に名前、続柄を記入していただき本人とどんな関係かを把握するようにしている。</p>		
<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>31 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>個々の相性や状態を把握して良い関係が築けるよう支援している。時には職員が間に入り会話のきっかけを作ったりもしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス終了後も面会や相談を行う体制は整えているが、今のところ対象となるケースはない。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、家族の希望、意向の把握に努めている。本人の些細な言動も見逃さないようにし、思いを汲み取り実現できるように努めている。表現が困難な場合でもご家族にそれまでの状況、暮らし方を確認したうえで、本人の立場に立ち職員全員で考え支援している。	○	本人の言葉で表現できない思いや願いも汲み取れるように努力する。面会時、電話連絡などの際に家族の方が思いや考えを話しやすい環境、関係作りに努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面談時に本人に聞き取りをしている。ご家族には可能な限りセンター方式のシート記入をお願いし、本人のこれまでの暮らしの把握に努めている。入居後も随時、本人とご家族から聞き取りさせていただいてる。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活状況や変化、気づきを生活記録、連絡ノートに記入し全職員が把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日常生活の中の本人の言動、家族からの要望、医療機関などからの指示を取り入れ、ユニットミーティングで話し合いながら介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	本人に変化が生じた場合には、期間終了前でも見直しを行い計画変更を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>38 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別の生活記録に一日の様子、水分、排泄、バイタル、入浴、食事等の記録をしている。連絡ノートには職員の気づき、提案等を記入し情報の共有と介護計画作成に活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>39 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>本人、ご家族の状況やその時々々の要望には職員間で話し合い、状況に合った柔軟な対応をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
<p>○地域資源との協働</p> <p>40 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>地域の中で安心して暮らしていけるよう、民生委員や町内会と意見交換ができる機会を設けている。</p>		
<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>41 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>本人の希望に応じて訪問理美容サービスを利用するなど地域の他のサービスを利用するための支援をしている。</p>		
<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>42 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>運営推進会議には地域包括支援センターの職員に出席いただいている。様々な情報交換ができて協力関係が構築されてきている。</p>		
<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>43 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。</p>	<p>協力医療機関として内科、整形外科、歯科の往診を行ってもらっている。本人、家族の希望する診療機関がある場合は、そちらに受診に行っている。</p>		
<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>44 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>協力医療機関の内科医は認知症に関して理解があり、相談に応じてもらっている。対応困難な場合は精神科を紹介してもらっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所職員としての看護師は確保していないが、定期的に訪問いただく看護師とは気軽に相談できる関係ができており、医療機関との連携体制も確保されている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は担当医師と話をする機会を持ち、ホーム内での対応可能な段階で、なるべく早く退院できるように病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合はできるだけ早い時期に家族、主治医に相談している。家族には現状をこまめに伝え、今後の方針について話し合っている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	家族と話し合いながら本人が安心して終末期を過ごせるよう取り組んでいる。急変した場合はすぐに対応していただけるよう医療機関とも連携をはかり対応している。		
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入所される際も退所される際も、情報交換、連絡等を密にして本人に合った介護支援、自立支援が実施できるように取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	日頃から個別ケアを基本に一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した支援を心掛けている。また記録の管理、保管も徹底している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している。	職員側が決めたことを押しつけるようなことはせず、本人が気持ちを表せる場面を多く作り、一人ひとりの能力に合わせ選択できる働きかけをしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの気持ちや思いを大切に希望にそえるようにしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	朝の身支度では可能な限り、自分で鏡をみて髪を整えて頂いたり、服を選んで頂いたりしている。理美容はほとんどの利用者が訪問理美容サービスを利用しているが、本人が望む店がある場合はそちらを利用している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と職員と一緒に食事準備や後片付けを行っている。献立作成の際に季節を感じられる食材を盛り込むようにしている。また外出レクリエーションの時には地域の飲食店での食事を実施している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの嗜好品を理解したうえで、本人の様子や時間をみながら、楽しめるよう支援している。お酒やたばこも他の利用者の迷惑にならないように配慮している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、できる限りトイレ内で排泄できるよう努めている。プライバシーに配慮しながら声かけや誘導をしている。一人ひとりの状態に合わせたパンツやパットの使い分けをしている。	○	気持ちよく排泄ができるよう、しぐさや行動に耳を傾け敏感な対応に努めたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの希望に合わせて入浴が楽しめるよう支援している。すすんで入浴をしたがらない方にも、できるだけ気持ちよく入浴していただけるように声かけなどを工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	安眠につながるようになるべく日中での活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくりと休息がとれるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴を把握するとともに、現在のADLの状況も考えてその人らしい毎日が送れるように支援している。調理、掃除、洗濯などで利用者の経験や知恵を発揮できる場面をつくりだすようにしている。楽しみごと、気晴らしという面では外出レクリエーションを行っている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的にはホームでおこづかいとして管理している。個々の能力、希望によっては家族と相談した上で所持していただいている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりの希望にそっての外出は難しいが、天気の良い日には散歩などに出て季節を肌で感じてもらうようにしている。	○	なるべく外の空気に触れる機会が持てるように取組んでいきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出レクリエーションを月2回以上行っており、果物狩り、バーベキュー、温泉などいろいろな場所へ出かける楽しみを持ってもらっている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人からの要望があれば電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問できるような雰囲気作りを心掛けている。面会時間の制限はなく、いつでも訪ねて来ていただけるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ユニットに身体拘束に関するマニュアルを設置するとともに、会議や日々の申し送りなどでケアを振り返るようにしている。身体拘束に限らず虐待について常に問題意識を持つよう取り組んでいる。	○	定期的に勉強会を行って、再確認し繰り返し学んでいきたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間防犯上の理由以外では鍵のかけないケアを実践している。利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけたと一緒にいくなど、安全面に配慮して自由な暮らしを支援している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に利用者一人ひとりの様子を自然な形でさりげなく見守りし、職員間で伝えあいながら安全面に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険物と推測できる物は危険性に合わせた保管をしている。ライター等は職員管理としている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでいる。万が一事故が発生した場合には事故原因の分析と予防対策について職員全員で検討している。	○	定期的に勉強会を行って、再確認し繰り返し学んでいきたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時のマニュアルを作成し職員全員が熟読するようにしている。訓練は個人では受講しているが全ての職員が訓練を定期的には行っていない。	○	救命救急の講習に職員全員が参加するようにしたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害を想定した訓練は行っていない。	○	日中、夜間を想定した避難訓練を実施する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者の安全を確保しつつ抑圧感のない自由な暮らしを支援するためには、家族の納得と理解が不可欠と考え、一人ひとりに予測されるリスクの提示と対処方法を、事前に家族と話し合った上で、職員間でも対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	定時のバイタルチェックを行うとともに、食欲、排泄、顔色、しぐさ等から体調変化がないか観察を行っている。変化が見られた場合は速やか医師、看護師に連絡をし指示を仰いでいる。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ファイルに処方箋を挟み、職員が内容を把握できるようにしている。服薬の際には名前、日付、時間を声に出して確認し本人に渡している。また確実に飲み込むまで職員が見届けている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	薬に頼るのではなく、普段から繊維質の多い食材を使用した食事を提供するとともに、水分摂取の促しや体操等の体を動かす機会を設けて自然な排便ができるように取り組んでいる。	○	乳酸菌や繊維質の入った飲料やオリゴ糖の使用など自然な排便心掛けしている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後口腔ケアを実施している。本人が磨ききれない部分は職員が介助している。また定期的に訪問歯科を利用し口腔内の清潔保持に努めている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事量、水分摂取量を毎日の生活記録、健康管理表に記入して職員で情報共有している。水分摂取量が少ない利用者に対しては声かけを行うなどしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し全職員で学習して予防、対策に努めている。うがい手洗いの徹底や塩素系漂白剤の使用など日常的な予防の他、インフルエンザの予防接種も実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒予防のためにまな板、包丁、フキン等は毎日消毒を行っている。また冷蔵庫内も毎日、点検掃除をし賞味期限や食材の鮮度など確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	エレベータホールには観葉植物と手作りの案内板を設置している。ユニット入口は安全配慮のため余計な物は置かないようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間と台所はつながっているので調理中の音や香りが感じられる。また季節感を取り入れた飾りなどに工夫をこらしている。音に対して敏感な利用者に配慮しテレビの音量にも気をつけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアのテーブルは4~5人で過ごせる場所。ソファは1~2人で過ごせる場所など幾つかの空間ができるように設置しており、それぞれが思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に本人、家族と相談し、なるべく以前から使用している馴染みの物を持ち込んでいただき、これまでの生活と変わらぬ環境作りをしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日の清掃時に換気を行っている他、臭いが気になる時にも換気を行っている。フロアの温度調節は温度、湿度計を確認するとともに、利用者の発汗、冷えなどにも配慮しながら行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>85 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>安全配慮と歩行しやすいように共用部には手すりが設置されている。</p>		
<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>86 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>本人にとって何がわかりにくいのか、どうしたら本人の力で行うことができるのかを考え、状況に合わせて環境整備に努めている。状態が変わり新たに混乱や失敗が生じそうな時には職員で話し合い、本人の不安材料を取り除き自立して暮らせるように工夫している。</p>		
<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>87 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>テナントビルのため無機質になりがちである。夏場は一階入り口前にプランターを置き花の水やりなど行っている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
・外出レクリエーションを月に2～3回企画実施することにより、利用者の日常生活意欲の活性化と地域との関わりあいの機会を作っている。
・その人のあるがままを受け入れ、状態や体調に合わせたケアを実践している。